

3つのポリシー

健康科学部

〔ディプロマポリシー〕

健康科学部のディプロマポリシーは、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体性・多様性・協働性」の3つのカテゴリーで構成されます。学位授与の規定は、2学科が定める所定の単位を修得し、学士力、専門職能を身に付け、女性のもつ能力を活かした専門的職業人としての使命感や責任感が持てる者であるかが重要となります。さらに、多世代にわたる対人関係力を身に付け、社会の一員として適切な行動ができている者に学位を授与します。

〔カリキュラムポリシー〕

本学部は、建学の精神であり学園訓である「親切」を根幹としており、教育課程では、「個々の人格を陶冶し、かつ高い教養を身に纏った力強い職能人としての女性を育成する」ことを目的に、これを達成するため、第一に、学士力向上を目標として教養科目、外国語科目などを家政学部・文学部と可能な限り共通で設け、幅広い視野に立った豊かな人間性を育成します。第二に、2学科それぞれに多くの専門科目を開設し、有機的連携を保ちつつ、体系的な教育課程を実現します。健康栄養学科においては、将来管理栄養士として活躍できる人材を養成するために必要な専門科目を多く設け国家試験合格を支援しています。看護学科においては、健康科学についての基本的な認識を土台として、看護の職務を遂行する上で必要となる専門的な知識と技術の修得のための専門科目を多く設置しています。学部全体（学士課程）では、女性として活かしたコミュニケーション能力をもち、専門職域のリーダーとして社会貢献のできる人材を育てるための教育課程を編成しています。

〔アドミッションポリシー〕

本学は、長年にわたり学園訓「親切」を根幹として、個々の人格を陶冶し、かつ高い教養を身に付け、真の男女平等の実現を目指し、よき家庭人であり力強い職能人としての女性を育成してきています。これらの教育目的を達成するため、健康科学部は、健康栄養学科および看護学科の2学科を設置し、人々の健康の維持・増進、疾病の予防・治療に食領域、そして看護領域における技術が身に付けられるよう教育しています。健康栄養学科では、人々の健康の維持・増進、疾病の予防・治療に食領域の立場から追究し、科学的根拠に基づいて実践できる専門知識や技術を有する管理栄養士を育成しています。看護学科では、『人』『いのち』『健康』『生活』に関心をもち、生命の尊厳や人の価値観を理解し、人を尊重できる「感性と倫理観をもつ人間力」と、科学的根拠に基づき、関連学術分野との連携に融合した実践ができる「的確な看護実践力」を育成しています。

両学科とも、自立した女性であり、同時に、学科のもつ専門的職業人として社会貢献をしたいと願う人材を求めています。

健康栄養学科

〔ディプロマポリシー〕

健康の維持増進のための栄養的手段がどの様に健康に役立つかを学び、管理栄養士業務が人を対象とした業務であることを理解し、心理学的スキルを含めた健康および栄養についての理論的、実践的専門知識・技能を身に付け、学科の教育課程に定める単位を修め、次の資質能力を備えた学生に卒業を認定し、学士（健康栄養学）の学位を授与します。

具体的到達目標を「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体性・多様性・協働性」の3つのカテゴリーで示します。

- 1) 知識・技能：食物学や栄養学を中心に幅広く学修し、管理栄養士に必要な基礎知識と応用力を身につけていること。
 - ・食物や栄養、病態について科学的根拠に基づく正しい知識・技能を習得し、医療、介護、福祉、保健、教育等の場において、適切な栄養管理、栄養指導を行うことができる。
 - ・咀嚼、嚥下、口腔健康管理に関する知識を習得し、さまざまな対象者における口腔健康管理や高齢者における嚥下リハビリ指導を行うことができる。
 - ・生命と人間の尊厳、倫理観、博愛などの医療人として必要な理念を理解し、対象者の人格を尊重して良心と愛情をもって接することができる。
- 2) 思考・判断・表現：食物や栄養に関する事柄について、問題点を把握し解決するための思考力と判断力を身につけ、さまざまな対象者の意見を聞き、それに対する自分の考えや知識を正確に伝えることができる表現力があること。
 - ・対象者の身体状況を正確に把握し、適切な栄養管理、栄養指導のプランを計画できる。
 - ・対象者にヒトの摂食・嚥下に関する機能の理解を促し、口から食べる支援の実施のために、個々に必要な口腔健康管理や食事指導を計画して支援することができる。
 - ・対象者から情報を引き出すとともに適切なアドバイスを分かりやすく伝えるコミュニケーション能力を身に付けている。
- 3) 主体性・多様性・協働性：管理栄養士養成課程での学修を基に、常に研鑽を積み、新たな問題や課題に対して積極的に取り組み、責任ある行動や言動ができること。
 - ・複雑化した健康問題に対して、多様な角度から情報を収集、分析し、自ら行動して問題を解決しようとする実行力を持っている。
 - ・「医療施設におけるチーム医療」や「在宅医療における多職種連携」で協働する医師や看護師などの他の専門職との相互理解に主体的に取り組むことができる。

[カリキュラムポリシー]

1 教育課程の編成目標

ディプロマポリシーの達成に向け、栄養学の領域はもとより、特に、医療系職能育成における専門知識と技術、科学技術の進展やグローバル化に対応できる専門知識と技術を習得し、看護医療職とも連携できる管理栄養士としての能力を育成します。

2 教育課程の編成と特色

1) セメスター制と GPA

セメスター制を導入し、一年を前期と後期に分け、半期ごとに完結する授業を行います。これにより、学生は半期ごとに単位履修状況を見直し、管理栄養士受験資格や栄養教諭資格などの取得可能性について確認できます。また、GPA (Grade Point Average) を活用して学生指導を充実させます。

2) 全学共通科目の設定と充実

大学での学びの導入として、初年次セミナーを1年次において履修し、大学生活における学修の目標を見定め、専門科目の履修目的の確認やモチベーションの高揚を目指します。また、「学士力」育成を目指し、人間形成、一般教育、外国語、情報・表現などのカテゴリーに分けた全学共通科目を可能な限り選択できるように設置します。

3) 専門科目群

管理栄養士養成課程として、理論と実践の一体的な専門教育をめざしたカリキュラム編成を行い、必修・選択等の割合を適切に配置し系統的に編成します。なお、看護学科との連携のもと学科間連携科目を設置します。

4) 学修成果測定

- (1) ルーブリックによる学修成果の可視化
- (2) 学修ポートフォリオによる学修成果の蓄積
- (3) 管理栄養士が必要とする学修成果や学修達成度、専門知識・技能に関する卒業研究（発表・論文）の講評

5) 学習環境

- (1) 管理栄養士の資格取得に必要な科目配置を行います。
- (2) 管理栄養士の資格取得に必要な学修の統合のための科目「健康栄養学総合演習」を設置します。
- (3) 総合学修のための自習室を準備します。

[アドミッションポリシー]

1 教育目的・人材育成目標

人々の健康の維持・増進、疾病の予防・治療に対し、看護医療職と連携し、食の領域から寄与し、科学的根拠に基づいた実践ができる専門知識と技術、特に医療系職能を身に付け社会貢献したい者を求め、4年間の学修の成果として管理栄養士の資格を有し、その分野で活躍できる人材の育成を目的としています。

2 求める学生像

- 1) 知識・技能：食物や栄養に関する知識や技能の基礎として、高等学校での学習科目のうち化学や生物を中心に幅広く履修し十分な基礎学力を持つ者
- 2) 思考・判断・表現：人の意見を聞き正確に理解し、自分の意見や考えを的確に表現し伝えることができる者
- 3) 主体性・多様性・協働性：食物や栄養に関する事柄に関心を持ち、人々の健康増進や疾病予防について専門知識を身につけ社会貢献できるコミュニケーション能力を高めることを目指す者。4年間の学修の成果として管理栄養士の資格を得て、管理栄養士や栄養教諭など専門を生かした職業を目指す者